

Oral Physician 診療所における成長期の矯正歯科治療
～口腔成育理念に立脚した治療時期、ゴールの設定～

伊藤矯正歯科クリニック 伊藤智恵

Oral Physician 診療所であれば、カリエスリスクをコントロールする手段は、すでに自家薬籠中のものでしょう。

「口腔内にう蝕があるから治療する」という発想はすでに捨て去り、90%以上の子どもが20歳になったときにカリエスフリーで歯周病のない状態を実現できるよう、長期的展望のもとに治療介入するシステムが確立しているはずです。

成長期の不正咬合についても、その姿勢は変わりません。不正咬合があるから矯正治療をするのではなく、20歳時までに「カリエスフリー、ペリオフリーの正常咬合」を確実に獲得するために、適切な治療時期やタイミング、治療ゴールと治療方針を設定します。しかも、美しく機能的な治療結果を快適に獲得し、それを長期に維持安定させること、つまり、最小の努力で最大の効果を得ることをめざさなければなりません。そして、その患者さん自身が希望するゴールを達成するためには、矯正歯科治療にとどまらず、インプラント矯正治療、外科矯正治療等の高度な治療法も選択肢として考慮しなければなりません。

成長期の不正咬合に対してどう治療介入するか、その意義、時期と目的、診断基準、治療ゴールの設定など、Oral Physician 診療所だからこそ共有して頂きたいことについて、データと症例を交えながら発表します。